

家計管理・生活設計のツボ

第4回

家計をバランスシートで 考えてみよう

人生は山あり谷あり。家計にだって余裕のある時期もあれば、家を建てたとき、子育て期、病気をしてしまったときなど、厳しい時期もあります。大切なのは一時的な山谷に一喜一憂することではなく、現状を正しく把握しながら持続可能な家計を営むこと。今回は、その実現に一役買う「バランスシート」の作り方をお伝えします。

- 👉 **ツボ1** 日々のやりくりだけでは家計の全体像を把握していることにはならない
- 👉 **ツボ2** バランスシートを作成すると、経営者の視点で家計が見られるようになる
- 👉 **ツボ3** 未来の「見えない資産や負債」を考慮すれば、夢の実現イメージも見えてくる

家計の「本当の姿」、 分かっていきますか？

皆さんは、ご自身の家計状況をどのくらい把握していますか？

「今のところ借金はないから、多分大丈夫」という人、「毎日家計簿をつけているから把握できているはず」という人も、それだけで十分でしょうか。なぜなら、家計を把握するということは、日々やりくりするお金だけではなく、貯金や株式、不動産などの「資産」、クレジットカードやローンに代表される「負債」なども含め、家のお金にまつわることをトータルに認識することだからです。

以前、このコーナーでは、夢を実現するための助けになる「ライフプラン表」を紹介しましたが、**今**の家計状況が正確に把握できていなければ、夢や計画がすべて「絵に描いた餅」になってしまう可能性もあります。そこで今回は、家計の現状を把握して将来の夢を実現するのに役立つ、「バランスシート」を作成してみましょう。

「家計バランスシート」を作ってみよう

バランスシートとは、**貸借対**

照表」とも呼ばれ、企業の決算報告などに使われる財務諸表のひとつです。「それを家計に持ち込むなんて、大げさなのでは？」と思うかもしれませんが、**経営者**になったつもりで家計を見渡すと、隠れていた問題点に気付いたり、ちよつと危なっかしい家計を健全化するためにはどうしたらいいだろう？と、考えられるようになるのです。

つまり、家計の「まさに今」を知ることが、将来にわたってお金を有効に使うことにつながっていくというわけです。

バランスシートの基本形は**図表**の通り。左側に「資産」―貯金や不動産などを、右側に「負債」(マイナスの資産)―ローンやクレジットなどを、それぞれをすべて書き出し、負債の下に純資産を記入するというのが一般的なスタイルです。「純資産」とは、資産から負債を引いた金額で、「資産」をすべて使って「負債」を返済した場合に手元に残る金額と考えると分かりやすいでしょう。家計の健全度、余裕度がこの数字に表れます。

例えば仮に、立派な家に住んで高級車を持つにしても、多額のローンを抱えていて純資産が100万円であれば、ローンがなく100万円

円を貯金している場合と、数字上では、家計の健全度、余裕度は同じということになります。

ここがバランスシートの優れた点で、「うちは大丈夫」と思っている姿が、作成してみると家計の本来の姿が、あぶり出されてきます。とくに、純資産がマイナスとなった「債務超過」の家計は、原因を洗い出し改善策を考える必要があります。

資産の性質を把握することも 家計チェックのポイント

バランスシートは、「今、この時点での家計のすべて」を明らかにするものなので、「たしか、だいたい、このくらい」ではなく、通帳、証券、契約書などを見ながら大きな漏れがないように記入しましょう。「積立貯金の残高が少ない。そういえば、2年前に一部引き出していたんだ」ということがあるかもしれません。

株式や外貨など価値が変動する資産については、インターネットなどで相場を調べて直近の時価を記入します。また、不動産や自動車などの実物資産も時間の経過とともに価値が変わっていくものの代表例。バランスシートに記入するのは、購入時の値段ではなく記入時点での取引相場額になります(図表の「☆」の項目)。

[Aさん宅 (夫40歳、妻37歳、子ども7歳、4歳) のバランスシート]

プラスの資産		マイナスの資産			
流動資産	普通預貯金	80万円	負債	住宅ローン	2,400万円
	定期預金	100万円		自動車ローン	30万円
	社内預金(財形)	480万円		教育ローン、奨学金	60万円
	株式	☆36万円		カード未払い金	50万円
	投資信託			その他	15万円
	保険(終身保険、解約金含)	200万円			
	その他				
計(A)	896万円	計(C)	2,555万円		
固定資産	不動産(土地、自宅等)	☆3,600万円	純資産 (A+B) - C	2,061万円	
	自動車	☆120万円			
	高額貴重品				
	その他				
計(B)	3,720万円				

保険は、貯蓄型であれば生命保険で満期を迎えた際、あるいは途中解約したときにお金が受け取れます。終身保険や学資保険、養老保険などは比較的高額なお金に戻ってきますので、資産として考えましょう。

資産を記載できたところで「流動資産」と「固定資産」に分けて整理してみましょう。流動資産はすぐに現金化して使えるお金、固定資産は解約や売却に手間が

かかるものや、住居等無いと生活に支障が出るものなど、簡単に現金化することが難しい資産です。このように分類しておくことで、「純資産には余裕があるけれど、万一のときの生活を考えるとすぐに使える流動資産をもう少し増やした方がいいな」といった判断ができるようになるわけです。

一方、負債も「今、この時点のすべて」を記入する原則は同じです。住宅ローンなど負債額の

大きいものは分かりやすいのですが、クレジットカードの分割払いや、通信料と一緒に支払っているため負債という意識が薄れがちなスマートフォンなど携帯端末の割賦金も、未払いのお金はすべて負債です。一つひとつは小さくても、積み重なると結構な金額になるものです。

将来を考えるための「見えない資産・負債」という発想

バランスシートができたところでもうひとつ。「今、この時点」というバランスシートの原則からは外れますが、どこか欄外にでも書いてみてほしいのが、「見えない資産と負債」です。

「見えない負債」とは、これからの人生で必要になる大きな費用です。

とくに、人生の三大支出といわれる、住宅、教育、老後にかかるお金については、いつ、いくらぐらい必要になるのか、純資産に対してどのくらい足りないのかを把握し、どのようにして捻出するかといったプランを家族で話し合うきっかけにできるといいですね。一方、お金を捻出する上で力になるのが「見えない資産」です。「見えない資産」とは、家族

のスキルや知識、仕事上の人脈など収入を生み出す源泉のことです。家計強化に繋がると考えれば、自己研鑽にもますます力が入るのではないのでしょうか。

純資産を増やすためには、収入や運用によって資産を増やし負債を減らす」ということが必要ですが、将来のバランスシートの姿を考えることで、資産運用をしてみようという場合も、自己投資をしてより収入の良い仕事への転身を考える場合も、「いくらまでならお金をかけられる」といったイメージが描きやすくなります。夢や目標をより多く叶える人生を送るためにも、バランスシートはより早いタイミングで作ってみることをお勧めします。

年度が替わる春は、バランスシートを作成する絶好のタイミング。みなさんもぜひチャレンジして、家計のリアルな全体像をご家族みんなで共有してみてください。

【参考URL】

●知るぼると…バランスシートで資産負債のバランスを分析する
<http://www.shiruboruto.jp/finance/kinyu/hyakka/hk1303.html>